

光の子



No.106 2003.12.25

●今年の聖句 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。(ヨハネによる福音書15:12)



クリスマスの恵みにより私たちの

暮らしと行いが浄められますよう祈ります

社会福祉法人 光の子どもの家

「聖夜の夢」

挿絵・中島英子

追伸のやうに雪降るクリスマス

別るるも逢ふもこの駅雪催

白鳥に祈りのごとき眠り来る

短日の軋み癖ある小抽斗

みくじ開いて悴みし手から手へ

討ち入りの日やトレンチの襟立てて

君とゐて聖夜の夢にきみと逢ふ

黛 まどか

『ヘップバーン』主宰



クリスマスのメッセージ

副施設長 竹花 信恵

クリスマスのご挨拶を申し上げます。

子どもたちが寝静まってから、そおつと訪れるサンタクロースからのプレゼントを心待ちにしながらも、クリスマスの本当の意味、言葉でありメッセージとして語られる意味を私たちは最も大切にしてきました。

その準備としてアドベント期間があり、クリスマスイブにはキャンドルサービス、当日にはクリスマス礼拝としてのページェント、その後にお友だちなどたくさんの方々と共に祝会を開きみんなで盛大に楽しむひとときとなります。

その一連の流れは毎年変わることはありません。それでもその年ごとに、その時しか表現できないクリスマスとなります。ひとつずつ年を加えた子どもたちは確実にこころと体を大きくして今年ならではの表情をみせてくれます。メンバーも増え、それぞれが嬉しいことも悲しいことも出会い、今しかないクリスマスとなります。

今年は大丈夫だろうかと思うことも少なくない毎日となり何か重苦しい気分が始まったクリスマス準備の時、ちょうどその日に私に素敵なメッセージがひと足先に届

きました。

その日、部屋をノックしたのは小学一年生。「はい。お手紙。」受け取った封筒はぶ厚く、中身はビーズ、木の实などの彼女の宝物たち。そして折りたたまれた手紙と封筒の上書きの両方におさまりきらない字で書かれていました。「だいすきだよ。いつもわたしお(を) 忘れないでね。」

この頃の彼女の荒れ方は、一体どうして、と訳が分からなくらいエスカレートしていました。小さな暴力、人を傷つける暴言。まるで何かに憑き動かされるかのようになり、人を怒らせることしか出来ないような振る舞いは続きました。お互い静かな気持ちになつて話もお互いでしたが数時間しかもたなかつたようです。

ため息をつくしかないような日々。彼女がメッセージを届けてくれました。いつも彼女の見える範囲にいた私が自分の位置をちよつとずらし、距離が結果として離れたことも敏感に感じ取っていたようです。もちろん私だけのメッセージであるはずありません。

しばらく顔を見ていない家族を待ち続ける想い、大好きな担当さんを新しいお友だちに取られてし

まうのではという不安。たくさん大きな不安を彼女ができる形で精一杯表現していたことを思い出します。「私はここにいます。忘れないでほしい」という強烈なメッセージは、この家全体に届けられたことを感じました。

彼女にとっては私からの「だいすきだよ」という返信より同封したアメの方を喜んでくれたようでしたが。

数年前、私が担当保育士だった時、笑顔になれない日々、涙を流す時、そんな時には冷蔵庫にメッセージが貼り付けられていました。「げんきだしてね。子どもを支えるはずが支えられここまできたように思います。」

何回そんな言葉に支えられ、やり直させてもらつたでしょう。最も暗く、寒く、汚く貧しい馬小屋に、私たちのために救い主がお生まれになったことこそ、私たちを支える最大のメッセージとして受けとめたいと思います。



エッセイ

「エッセイ」

寒くなってきた。やつと寒くなってきた。今年も例年にくらべて冬の到来がおそいのかも知れない。なぜなら、夏の間にはさんざん赤い花を咲かせたハイビスカスがまだ枯れないで、多少疲れてはいるが、緑の葉と赤いつぼみをつけたままにいるからである。

この十二月は、私にとっては或る意味で嬉しい月でもある。私が関係する展覧会が、全部終わる月だからである。そして、四月頃までは少しのんびりできるという訳だ。

四月に入ると、大小いくつかの展覧会が待ち受けている。

四月のグループ展、五月の彫刻の団体展、五月から六月にかけての埼玉県美術展、七月八月、九月、十月は何もなく、十一月に入ると三つの展覧会である。そして十二月に一つでやつと終わりという大まかなスケジュールで例年の展覧会に参加している。

展覧会にのぞむには、まず作品の制作をしなければならない。手を抜いた作品は、誰が見てもすぐ手抜きがバレてしまうから、やはり力をこ

彫刻家 中島 睦雄

める必要がある。しかし、これは自分の力量のレベルまでであつて、それを越えることは有り得ない。

案内状の発送もある。自分の作品を見てもらう為に、なるべくたくさん案内状を出したいと思う。しかし、これがなかなかむずかしい。「案内状をくれよ。」と言う人がいるかと思うと「やたらに案内状をもらうのも、困るんだよ。」と正直に言う人もいて、迷惑をかけないようにしなければ、と神経を使う。それに、最近の案内状には、「〇印の日に私は会場におります」という欄があつて、予定して〇印を付けたものの、当日会場に行けなくなつてしまい、心ならずもスッポカシて、後で怒られたりしている。

展覧会の本番は本番で、何かと疲れるという事を、毎年毎年、もう何十年も繰り返しているのである。

昨年のグループ展でのことである。このグループ展はもう二十数年続いているものだが、例年通り新宿の画廊で、三十人位の参加で行われた。油絵あり、水彩画あり、彫刻あり、

工芸ありと、さまざまな作品を展示した。この展覧会の名前が「混林展」で、林の中に、いろいろな種類の木が混在するという意味らしい。かなり自由な展覧会なので、私も、枯れ木も山のにぎわいになるだろうと思つて出品している。自分としては、出品することによって勉強するつもりではいる。

ここでは、一人につき一メートル四十センチ幅の壁面が与えられるので、私は二十号の「利根川」と、小さい「いちご」の油絵を出品した。どちらの作品も、自分の生活の身近なものが題材である。田崎廣助という画家が阿蘇山を愛したように、私は愛する利根川と、家のまわりで生産されているいちごを描いた。

利根川は美しい川である。上流の方は知らないが、私のいるあたりは、実に単調な構図である。そして、静かに黙つて流れている。この単調さが良い。そこが好きなのである。だから、なるべく大勢の人にこの川を見てもらいたい。そう思う反面、誰にもこの美しさを知らせたくない、独り占めしたい、そんな気持ちもはたらくのである。構図は単調だが、朝な夕なな色彩の変化と美しさは、何とも言いようがない。

いちごだつてそうだ。あのきれいな赤い色やおいしい味は、もうどうしようもない。

ところで、私の友だちのKさんも、この展覧会にアクリル絵の具による素晴らしい風景画を出した。Kさんは、展覧会の会期中に、彼の娘さんを連れて来たという。五・六十点程の作品を娘さんに見てまわつた。展覧会の最終日、Kさんは私に近寄つて「中島さんね、うちの娘にね、この会場の中で一番印象に残つたのはどの作品だ?と聞いたらね、あの『いちご』の絵が一番良かったと言つてたよ。」と言つた。

春先になると、私の家のまわりのいちご農家では、おいしいいちごの収穫が始まる。私は、Kさんの娘さんの言葉を思い出していた。そこで、いちごの絵をほめてくれたんだから、本物のいちごを味わってもらおうと、一箱送つた。「本物のいちごは絵のいちごよりもおいしいですよ。」とでも書いたように思う。すると、間もなくKさんの娘さんからお礼の手紙が届いた。

「おいしいいちごをありがとうございませう。来年の展覧会には、ぜひメロンを描いて出品してください」と。

大江健三郎は、最近出版した往復書簡集のタイトルを「暴力に逆らって書く」とした。また辺見庸はその著書に「いま、抗暴のときに」と名付けた。二人の叫びが空しく聞こえるほどに、いま世界は

富士郎
仙道
大長
山形

「暴力に抗う」

学者もどきのつぶやき ⑥4

まさに言葉とは裏腹に非人道的な行為以外のなものでもあるまい。「自衛隊を派遣しなければ、米国に対する義理がたたず、日米関係が悪化すれば、我が国の防衛はも

暴力で満ちている。二人の外交官が命を落としたこのときに、政府は「イラクへの自衛隊派遣の方針に何ら変化はない。そうすることにはテロに屈することになる」と言う。しかし、標

たない」とはつきり明言した上で議論を始めることが、少なくとも守られなければならない前提ではあるまいか。それにしても、「争う」遺伝子はホモサピエンスへの進化に伴って、摩耗するどころかさらに増殖したかに見える。なにしろ、敵対する人間集団どころか、地球上のすべての生物を一瞬にして殺してしまう「兵器」と名付けられた道具を人間は作り出してしまったのだから。

肥料を入れたバケツを持って3キロの道のりを歩かされたこと等々、雑多なことどもが脳裏に浮かんで消えていく。田舎だったので、空襲などの戦闘場面に会ったことはないが、長靴を履いてカービン銃を肩にかついで、当時進駐軍と呼ばれていた米兵が学校の廊下を闊歩していたときは、子どもながらに恐ろしい思いをした。六十五才の私の記憶にわずかに残っているだけだから、我が国の働き盛りの方々には戦争の影はあろうはずもなく、戦争を想像として把握することは困難であろう。その故もあつてか、現在我が国で反戦の声はか細い。

今年二〇〇四年度の年賀状で、イラク戦争に触れ、「人間の脳の発達には技術を生み、生活を豊かにしたけれども、人の心を豊かにしなかつたのでしようか」と疑問を投げかけた。この問いに否定の答を出すためには、暴力に抗い、反戦の声を上げることが私たちに課せられているのではないか。来年四月に法人化される大学のこと頭がいつばいな私であるが、多くの人達のところへ届けられている機関紙『光の子』の誌面を借りして、反戦のメッセージとさせていた。だいた。

いわゆる玉音放送の内容が、少年の私には「ロシアが日本に加勢することになったそうだ」と伝わった謎は未だに解けないが、集団疎開で親元を離れ、東京から私の郷里である秋田の田舎にやつてきた子どもたちが、小学校の校舎の一部で生活していたこと、食糧増産だということでテニスコートを掘り返してカボチャを育てたこと、また小学校の一年生だったのに、

我が国はいま戦争に巻き込まれそうになっている事態を直視する必要があるのではないか。「自衛隊の派遣を間違えたと現政権が倒れる」といった議論を耳にするが、そうしたことはいわば日本というコップの中の出来事であるのだが、世界の眼で眺めれば、事はそんなに簡単ではなく、何ら大義もないことがはつきりしてしまつたこの戦争がベトナム戦争のように泥沼化し、さらに、さらに多くの人間同士が殺し合うと



2つの文化に生きる 39

東京 子
教団東大宮教会
日本キリスト教団東大宮教会
バーガー

「一年で一番心がワクワクする季節」と言うとき少し言い過ぎだろうか。決してそうではない。やはり、どきどきワクワク心ときめいてしまう季節である。このシーズン、日本の教会では奉仕がいつぱいあり、「クリスマスはクルシミアス」などと言う人もいるようだが、わたしにとつてやはりこの時期どんなに忙しくてもクルシミアスではなくて、どきどきワクワクのメリークリスマスである。

さて、何がそんなにどきどきワクワクなのか。そう、なんと言ってもクリスマスはイルミネーションがすばらしい。アメリカでクリスマスを過ごすたびにああアメリカにおいてよかつたと思う。そ

のイルミネーションは半端ではない。あちこちの家がほんとうに隅から隅まですばらしい飾り付けをする。アドベントの期間、毎晩よく夕食後に家族でドライブに出かけ、あちこちの飾り付けを楽しんだ。今年日本でクリスマスを迎えるため、そんな楽しみは味わえないのだが、我が家は我が家なりに飾り付けをした。クリスマスツリーを飾り、部屋中にできるだけのイルミネーションを取り付けた。今年もアドベントリースは庭の金木犀の枝を切って作り、玄関ドアに飾った。アドベントカレンダーは数えてみると8枚あちこちの壁に飾り、毎朝一つずつ窓を開けて行く。これはほんとに毎朝わくわくするものである。

さて、飾り付けだけでクリスマスはワクワクするものだろうか。そうそうクリスマスはプレゼント交換ができる楽しい時である。子供達にとつてはサンタさんがプレゼントをもつてきてくれる。大人でも子どもでもプレゼントをあげたりもらったりすることはほんとにわくわくしてしまう。さて、クリスマスの楽しみはそれだけだろうか。そうそうおいしいごちそうが食べられる。アメリカ

カでは遠方に住んでいる家族も帰り、みんな大きな七面鳥を囲んで楽しい食事の時を過ごす。日本でも教会では愛餐会といつて皆でおいしいお食事をいただき、ゲームをしたり、交わりの時を楽しむ習慣がある。これもほんとうに楽しいひとときである。美しいイルミネーション、プレゼント、おいしい御馳走。ほんとうにわくわくドキドキの楽しいクリスマスである。・・と、締めくくってしまうと表面だけのいわゆる世俗的で世の中の営利主義に大貢献しているお祭りのクリスマスで終わってしまう。

実は一番大切なことを忘れてはならない。それはクリスマスは神様の御子であるイエスさまのお誕生日をお祝いすること。イルミネーションを飾るのもプレゼントを交換するのもごちそうを食べるのもみんなイエスさまのお誕生をお祝いするためにすることである。イエス様なしにお祝いするのは本当のクリスマスではない。どんなにきれいなイルミネーションもどんなに美しいごちそうもどんなにりっぱなプレゼントもイエス様のお誕生をお祝いする目的がなければ、それは本当のクリスマス

マスのお祝いではないのだ。2000年前に起こつたクリスマスのお出来事は毎年この時期を迎える度に驚きを新たにしている。神様が人間の形をとつて私達たちのような普通の家庭にお生まれになつたからだ。それも生まれる場所がなく、家畜小屋だったのである。そしてその誕生の目的は私達人間があまりにも自己中心で神様のことなど無視して生きていたからである。イエスさまは神様と私達人間をしっかりと繋げるためにこの世に来て下さつたのである。そのことを感謝して心からクリスマスのお祝いをしたいと思う。

ところで毎年この時期になるともう一つ感動を新たにすることがある。それは十七年前のクリスマスの朝のできごとだ。身重でクリスマスイブのキャンドルサーピスに出た翌朝、新しい命が与えられたこと。あの時の驚きは今も忘れることができない。メリークリスマス！イエスさま、お誕生日おめでとう。そして、私の背丈をとつと越えてやさしく成長した娘にもお誕生日おめでとう。

おめでとう

クリスマス特集

☆ ☆ ☆
楽しいクリスマス
中二 華美

私は、この家に来て、七回目のクリスマスを迎えます。その中には、いろんな時がありましたが、大変なこともあり、楽しいこともありました。今年のクリスマスは、すごく楽しいクリスマスを迎えましょう。と、私は思います。

けれども、今年のクリスマスは少し変わったクリスマスです。かき君が神様の所へ行きました。私は思いました。きつと、かき君はつらかったと思います。でも、今は、きつと神さまのもとで嬉しいうるなあと思っています。それと、みんなに会えたこと、遊んだこと、しゃべったこと、など、まだまだ色々あるでしょう。私は神様とかき君を信じます。毎日、お祈りしたいと思います。今年のクリスマスは、楽しく迎えたいと思います。

☆ ☆ ☆
中一 泰智

今年の九月に小学五年生の渡部かずき君が交通事故で亡くなりました。二学期が始まったばかりだというのにすぐ残念です。今までこんなことが一度もなく、そして急な出来事でした。その施設長はもうやめようかなと思ったそうです。

そこで今年のクリスマスをご様に迎えるか考えました。去年はこんなことがなく楽しく迎えられたのですが、今年はその様に迎えたらよいでしょう。やはり、かき君のことを思い浮かべながら楽しく迎えたほうがいいでしょう。

クリスマスは神の子、主イエスの誕生日であり、楽しく迎える日でもあります。だから、クリスマスという日があるのです。そして、光の子どもの家で毎年行われるページェントの僕の役は博士です。昨年博士だったのでだいたいどんな役目かわかります。クリスマスというのはよっぽど特別な日なんだと思いました。

☆ ☆ ☆
中三 侑子

ここに来てから二回目のクリスマスになります。一年間はあつという間に過ぎていきました。去年のページェントでは、聖歌隊をやりました。ハンドベルはとても難しく、練習を重ね、ぎりぎり成功させました。

今年も聖歌隊なので去年よりいい歌声やハンドベルにしたいです。

☆ ☆ ☆
中二 乃衣

私は光の子どもの家でクリスマスをおごすのは今年で二年目になります。去年はキャンドルサーピスやページェントってどんな事なんだろう？とと思っていました。

最初は神様はどこで産まれたとか全然わからなかったけどページェントをやつて、イエス様のことが少しずつわかるようになって

☆ ☆ ☆
高三 福子

いよいよここで迎える最後のクリスマスとなりました。あつという間に十六年も経った今、思い出すことはいっぱいありますが、やっぱり一番楽しみな日と言ったらクリスマスだったと思います。クリスマスはイエス様が誕生された特別な日なのです。私たちのために、この世に来てくれて、どんなに支え守られた事かと考えると、ありがたい気持ちになります。

☆ ☆ ☆
中一 正

今年、かき君が天に召されましたが、一人一人が他の人の事も考えられるように、と私は心から願います。また、いつまでも永遠の命の尊さを教えてくれたかき君の事を忘れないようにしたいです。

今年、かき君が天に召されましたが、一人一人が他の人の事も考えられるように、と私は心から願います。また、いつまでも永遠の命の尊さを教えてくれたかき君の事を忘れないようにしたいです。

クリスマス

☆ ☆ ☆
高一 恵美

今年もいよいよクリスマスです。毎年、クリスマスが近づくと、小さい頃のクリスマスの思い出やプレゼントのことやサンタさんについて考えたりしていました。でも、今年は違った。昨年のクリスマスに、かき君が書いた一つの文章を思い出した。

「僕はクリスマスが好き。真也くんが好き、世界が一番大好きなのは、イエス様です。」その文章の中で最も印象に残っているのはこの一節でした。イエス様が大好きで、クリスマスを毎年とても楽しみにしていたかき君が、もういないというのは未だに信じられません。でも、目に見えないだけで、かき君は私達の心の中で生き続けていると思います。だから今年も天国にいるかき君と一緒にみんな楽しく過ごせるクリスマスにしたいです。ページェントもみ

☆ ☆ ☆
高一 賢

今年で、二回目のクリスマスを迎える事になりました。去年と違って今年は一回目なので、気は楽になったという感じがします。しかし、今年自分のグループにいた、かき君と一緒にクリスマスを過ごせないということが残念です。しかし、新しい人との出会いもあり、今年は今年で良いクリスマスを迎えられそうだなと思っています。今年から高校生になって環境も変わって大変なことがあった一年だったけれども、また来年も楽しく過ごしていきたいと思っています。

☆ ☆ ☆
高二 ヒロミ

今年はいつもの少しだけ、ほんの少しだけあつたかい気がします。それだけではなくこの家では、クリスマスが近づくと

つれてどんどんあつたかさを増して行って、クリスマスには、このあつたかいクリスマスをおごめて多くの人たちが集まります。このあつたかさというものは、何なのだろうか、と思います。ただ気温の問題ではなく、やっぱり人の心のあつたかさ、豊かさなんではないか、と思いました。この家に来てから、本当に人の優しさを理解し、自分もそういう人になれたらなあ。と思うようになっていきました。

☆ ☆ ☆
小六 佳美

今年も、このあつたかいクリスマスをおごる予定です。去年よりおとしよりももっと楽しいクリスマスにしたいです。かき君のために、あつたかいクリスマスを作り上げていきたいです。

今年、かき君が天に召されましたが、一人一人が他の人の事も考えられるように、と私は心から願います。また、いつまでも永遠の命の尊さを教えてくれたかき君の事を忘れないようにしたいです。

今年、かき君が天に召されましたが、一人一人が他の人の事も考えられるように、と私は心から願います。また、いつまでも永遠の命の尊さを教えてくれたかき君の事を忘れないようにしたいです。



クリスマス

子どもたちの季節 仙道家

メリークリスマス。いかがお過ごしですか。この楽しいクリスマスにそれをわちあいたい仲間がない寂しさもありますが、麻衣と美歩にとって光の子どもの家でむかえる初めてのクリスマス！忘れられないクリスマスになるよう今からこそそと準備をしています。三歳になったばかりの美歩は担当のことを「ママ」と時々呼び「ママのおっぱい飲みたい！」と言います。何も無い状態から生まれた赤ん坊に母親、父親から豊かな情緒の芽を美歩の心に植えつけるという、人生の中でもっとも大切な時期にそれを経験できなかったのでしょうか。

美歩にとって光の子どもの家に来た日ももうひとつの誕生日だと思えます。美歩にこぼれるほどの愛情を注ぎ、誰からも愛され、みんなの心をホッと和ませることがができる美しい女性に成長して欲しいと思います。今は何をすべきかわからない、ハラハラドキドキの毎日ですが、これからも美歩の心に寄り添い続けたいと思います。

山口 麻衣子

原田家日記

少しずつ寒さが増してきましたが、子ども達はいつでも元気で時間の許す限り外でサッカー、鬼ごっこ等で体を動かします。笑い声も絶えませんが、けんかも絶えない日々であります。そんな中、原田家で一番と言ってもよい大きなわがまま娘がおります。中学三年生の多奈子も求めてくる要求はいつも激しく、些細なことでも苛立ちを爆発させてきます。みんなに愛されたい、が逆の行動をしてしまう日々を送ってしまう彼女に対して、私たち大人は、なにがしてあげられるのか、本当に悩んでしまう毎日であります。しかし、今彼女がほんの少し前向きになれているのは、今の私の大きな支えともなっています。そしてその彼女を、一緒に暮らす子どもたちが、自然に共に支えてくれていることには、心から感謝しています。ここで共に暮らすこと、それは共に支えあうことなのだ、私自身支えられながら思う日々であります。



北谷 優佳

季節のおとずれ

市川家

だんだんと寒い冬が近づいて参りましたが、いかがお過ごしですか？
二期も半分が過ぎ、子ども達はそれぞれ頑張って学校、幼稚園に通っています。

美季のいる五年生が、小学校を代表して地区の音楽祭に出場しました。歌った歌は、かずきも練習していたものでした。十一月三日に第十九回感謝の集いがありましたが、その時も五年生全員が心をこめて歌ってくれました。音楽祭ではとても上手に歌っており、皆かずきの分まで頑張っていてくれました。美季も、体全体で歌っていました。

静一は、マラソン大会に向け、自主マラソンに励んでいます。練習では一位をとり、ニコニコ教えてくれました。本番でも一位がとれるよう、応援に行きたいと思っています。

要、美也子は幼稚園に入ってから初めての表現発表会の練習をしているようです。家は家で練習しようとして紙皿を使って踊っています。美也子は正反對に「本番まで楽しみにしてね」と言っていて全く教えてくれませんが、とても活き活きした

顔をしています。

一人一人が学校で、幼稚園で一生懸命になれるものがあり、活き活きと生活しています。それぞれが、自分の力を発揮できるように、家でリラックスできるような心遣っていきたくと思っています。

市川 美穂



光の中で

佐藤家

十一月二十三日。朝起きると、宗和と悠花から「服部さん、プレゼントだよ。」
「今日は感謝する日なんだよ。」と、手紙と手作りの首輪をもらいました。手紙には「いつもありがとう。お手伝いするね。いっしょにあそぼうね。」と書いてありました。思い掛けない贈り物に心を打たれ、目頭が熱くなってしまいました。子ども達のおかげで私はここに居ることができると改めて感じたと共に、子ども達のように「ありがとう。」と素直に感謝す

る心を忘れずに持ち続けたいと思えました。

ずっと前から心待ちにしていたクリスマスを迎える日が近づいてきました。ペーセントでは「天使をやりたい！」と言う宗和にとっても、「絶対聖歌隊！」と言う悠花にとっても、みんなが聖なる日を心からお祝いできることを祈っています。

服部 沙絵子



河のほとり

倉澤家

皆さんこんにちは。僕は104号で紹介のあった成黎です。

今回は、僕が目から見た倉澤家のメンバーを紹介したいと思います。それでは僕に年齢の近い順から。まずは六歳のみきちゃん。倉ちゃんはお姉さんになつたーと書いていましたが、僕に言わせればまだ、まだ。僕の絵本やおもちやを欲

しがったり、僕が倉ちゃんに抱っこしている。「あーだめ。みきのママだよ！」
何て言うし、そりやたまにはお姉さんらしいこともしてくるけど。もう少し大人になってくれると僕は楽になるんですが。;

次は中学二年生の乃衣ちゃん。乃衣ちゃんは僕とよく遊んでくれます。でも僕を楽しませる為。というよりは自分が先に楽しんでしまい大騒ぎになって「うるさいよ。」と皆から非難を受けることもしばしばです。でも僕は乃衣ちゃんの天真爛漫なところと笑顔が大好きです。

高校一年の恵美ちゃんは部活で忙しいようで、あまり家にいません。倉ちゃんに「もう少し早く帰ってこれないの?」
と言われることが多いようです。どうやらイベント好きで何かある度に夢中になってしまうようですが、何に対しても前向きでパワーあふれる姿には感心しています。

最後は八月に本園からやって来た高校二年生のヒロミちゃん。ヒロミちゃんには高校生とは思えない落ち着きがあつて、ヒロミちゃんに抱っこしてもらおうと何故かホッとします。「何をやらせても完璧！」と倉ちゃんが絶賛していたのを耳にしたことがあるので、きつとそうなのだと思います。

この他にも卒園生の亜希ちゃんと沙慧ちゃんが倉澤家に良くやって来ます。二

市川家

だんだんと寒い冬が近づいて参りましたが、いかがお過ごしですか？
二期も半分が過ぎ、子ども達はそれぞれ頑張って学校、幼稚園に通っています。

美季のいる五年生が、小学校を代表して地区の音楽祭に出場しました。歌った歌は、かずきも練習していたものでした。十一月三日に第十九回感謝の集いがありましたが、その時も五年生全員が心をこめて歌ってくれました。音楽祭ではとても上手に歌っており、皆かずきの分まで頑張っていてくれました。美季も、体全体で歌っていました。

静一は、マラソン大会に向け、自主マラソンに励んでいます。練習では一位をとり、ニコニコ教えてくれました。本番でも一位がとれるよう、応援に行きたいと思っています。

要、美也子は幼稚園に入ってから初めての表現発表会の練習をしているようです。家は家で練習しようとして紙皿を使って踊っています。美也子は正反對に「本番まで楽しみにしてね」と言っていて全く教えてくれませんが、とても活き活きした

人とも、倉ちゃんが忙しい時には僕の相手をしてくれるので感謝しています。

僕はこんな「女の園」で生活しています。もし「うらやましい」と思う人がいたら、いつでも（喜んで）替わりますので申し出て下さい。

今年、光の子どもの家で初めてのクリスマスを迎えます。どんなクリスマスになるのか今からわくわくドキドキしています。

サンタさん、プレゼントはアンパンマンのおもちやにして下さい!!!

倉澤 智子



あかり窓

心理室から

クリスマスおめでとうございます。
高校三年生の環くんにとって、この家ですぐ最後のクリスマスになりました。

彼は心根の優しい、人の心の機微の分かる子なのですが、イライラしてしまうとなかなかおさまりがつきません。先日、少しでもイライラだつことのない環境へと考え、彼の好きなドライブに連れて行きました。彼は出発直後は嬉しそうにしていたのですが、ふと「僕をみんなと引き離したいんですよ」と呟き、「みんなと遊びたい。帰りたい」と哀願してきました。イライラしないで済むように。というものは大人の親切の押し売りなのかもしれません。しかしここで生活しているのは環くん一人だけではなく、彼のイライラが他の子に与える影響も考えなければなりません。私たちに足りないところをお医者様に助けていただきながら、環くんがニコニコのいいクリスマスを迎えられるように準備を整えていきたいと思います。

積 みどり



子どもたちの今・これから その3 児童虐待防止法・児童福祉法改正

菅原 哲男

徹は三年生になり卒業後の進路も堅実な就職先を探し始めていた。徹に父の状態のことなど伝える訳にもいかず、かといってこのまま手をこまねいていると徹が父の元に連れ去られ、生活のめども立たない父親の生活保護費の増額のための犠牲になる可能性も否定できなかった。だから何とか今の生活を守ることが私たちの最低限の義務でもあった。

朝夕の通学時に徹に気づかれないように通学時に尾行して彼の身の安全を図る日が半年以上も続いたのだ。

児童相談所には、担当福祉司のみならず複数の上司に、私たちと父との間の調整をしてくれるように福祉司のはたらきをサポートし、適切な対応を願ったりもした。

それでも児童相談所のはたらきを待つわけにはいかず、その年の夏、児童相談所に教えられた親の家を地方都市に訪ねたがそこには住んでいなかった。あまり期待もせず、駅前体などを説明すると、中年のお巡りさんは私の説明を遮って、徹の父の名前を言い出した。そして諦んでいた住所を丁寧に教えられて町はずれのアパートを訪ねたが留守だった。手渡そうと準備していた手みやげにメモをしたためたドアのノブにかけて帰ったのである。

児童相談所にその連絡をすると、担当福祉司の上司が電話に出て、「どうしてそんなことをするんですか！信じられない。私たちの動きを待てないんですか！」と激しい口調で言ってきた。一年前の三月に父が焼身自殺を図ってから、児童相談所は父と面会さえしていない。現に児童相談所から教えられた住所には住んでいなかった。だから現在住んでいる住所を教えるために電話をしている。こうなる前に児童相談所がすることやしななければならないことはたくさんあった。

そんな中で、春休みも夏休みも徹と父親との関係調整が出来ず、面会や関わりも出来ていなかった。秋分の日を挟んだ連休には児童相談所を待たずに徹と父親とを面会させるための調整をすることを心に決めていた。それでも、しばしばかけて来る電話で、酒を飲んでいないか、父親の心の状況は安定しているかなどを推し量り、やりとりを進めて、かなり関係の改善が進捗していた。ある夕方の電話には、約4年ぶりに徹を出して父子の会話を可能にした。

溢れる涙を拳でぬぐいながら、「もうすぐ就職の面接がある。卒業したら一生懸命働く。そしてお父さんを迎えるに行くから体を大事にして待っていてくれ。あまりお酒を飲まないように・・・」電話を切った徹は顔を伏せて自分の部屋に駆け込んでいたのだ。

もうすぐ連休という9月半ば父が死亡したと児童相談所の福祉司から電話で告げられた。私は言葉が失った。そして激しい怒りが全身を包んだ。どうして児童相談所などを待っていたのだろう・・・誰のために親子関係の改善や私たちと父親との関係回復をためらってしまっていたのだろう。

私の中には、児童相談所との関係の悪化を懼れていたことも事実としてあった。それが悔やまれてならなかった。子どもたちのための子ども施設運営を志しながら・・・私たちが支えられている教会の牧師と相談し、火葬場でのお別れの儀式をして送り出すことに決めた。

徹には、心から謝罪して事実を告げた。彼は泣きながら謝ることなどかないと言ってくれた。

翌春、徹はここからほど近い距離にある中堅の製菓会社に入社し、時々来ては食事などしていく。

後に、徹の父の死因は、処方された酒を飲んだ上風呂に入って倒れた上での溺死だった、と聞いた。

こんな悲劇の積み重ねを、どう防ぎ子どもたちの福祉を創り上げるのか、それが法改正の目指しているのではない主柱であるように祈る。

現場から

続・光の子らしく

⑩

岩崎 まり子

クリスマス、おめでとございませす。皆様、いかがお過ごしですか。

空気が凛としてきて、あたたかさが身にしむ季節となりました。

田口兄弟の母が長い放浪の後、ケースワーカーを通して連絡を寄越し、きちんと定住し治療を進めているので子どもに会わせて欲しいというところで、ワーカーと共に来訪したのは去年の冬のことでした。その後、連絡はなかったのですが今度こそきつと・・・子どもたちは信じていたのではないかと思えます。ですが、母は夏から行方不明だという残念な知らせが入ったのは今年の初秋でした。子どもへの思いがとても強く、目的

のためには手段を選ばない母親なので、また去年のように突然子どもの前に現れるかもしれないと、職員間に緊張が走りまわりました。

戸締まりや見回りに走ったりと、兄弟をマイナスの場面に立ち合わせないよう地道なフォローを続けていました。

そんなある日、弟の塾生が「また穴さんが乗せて帰ってきてくれたよ」と、問いかけるような目でじつと私を見つめてきました。「ラッキーだったね！」とその場では答えたものの、彼にだまって、いえ、彼らにこそ心の準備が必要です。きちんとまた話しをしなければ、と急に重くなった胃のあたりを意識しながら考えていま



それからしばらく経った頃、就寝前にまた塾生が「お母さんはどこに居るのかな」と言い出しました。今かもしれないと思いい、「実はね」と私は覚悟を決めて話しました。

母親が行方不明になるのは初めてではありません。でも話を聞いて塾生は泣きました。兄の憲也は真剣な表情で、しっかりと目を開け聞いていました。

子どもは生まれるところを選べません。生きる場所も選べません。戦場で生まれたり、飢えて死ぬ他ないような所や望まれない所に生まれてくる命の方が、世界的規模で考えると多いそうです。来て欲しいとき、居て欲しいときに親が居ない子どもたちは、たとえどんなに幼くても自分のプライドと心を守るために防衛をします。里奈

厳しい、そして重たい現実の中にあっても片目ではいつも、目の前の楽しみを追いかけている。そんな彼らに、彼らに伝えられる以上の感謝の思いを、私は伝えられているでしょうか。持ち合わせているでしょうか。皆さま、おからだを大切に。そしてクリスマスのよい備えができますように。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 7月1日▶9月末日

- 7月
- 幼児9名 小学生13名 中学生6名 高校生8名 計36名
- 2日 菅原施設長聖学院大学で講演
- 日本社会事業大学加賀美ゼミ実地演習
- 4日 沖縄県児童養護施設青雲寮より見学2名来訪
- 9日 朝霞・新座両市蕎麦店主の方々の手打ちそば会
- 12日 鎮守の天王様のお祭り
- 16日 原道小学校教師との懇談会
- 18日 菅原施設長鳥取県虐待ネットワークで講演
- 19日 夏休みオープニングパーティ
- 20日 菅野ドクター来診
- 23日 小学生低学年小海の谷本画伯のアトリエを今年もお借りしてハヶ岳登山へ25日まで
- 28日 小学生高学年がハヶ岳赤岳へ31日まで
- 8月
- 3日 東大宮教会夏期学校へ小学生13名参加5日まで
- 5日 北海道方面家庭訪問 札幌→土別→石狩→帯広へ子どもたちのお盆帰省のための調整
- 10日 お盆帰省開始 年々帰省可能な子が減少
- 11日 宇佐見の増田設計士宅 湯河原の府川宅 秋田の小西宅へ20名を超える子どもたちが海水浴など
- 改革長老教会の夏期研修会へ高校生2名参加
- 17日 東大宮教会中高生夏季キャンプアジア学院にて19日まで アジアの留学生と農作業に汗を流し交流

- 7月1日～9月末日
 - 18日 カリフォルニア大のインターン生2名を秋田県羽後町の盆踊り大会へ招待19日まで
 - 22日 恒例の聖学院大学ワークキャンプ23日まで
 - 24日 菅原施設長神奈川県キリスト教保育連盟で講演
 - 30日 さよなら夏休み大パーティ
 - 9月
 - 1日 2学期開始
 - 5日 午後4時頃渡部かずき交通事故 9時48分死去
 - 6日 渡部かずき前夜式 大利根町町長など多数が参列
 - 7日 渡部かずき告別式 計350名余が弔意を感謝
 - 11日 創立以来強力なご支援を頂いている国際婦人福祉協会福祉委員会役員3名がご来訪。
 - かずきを偲び安全を確認する夕食会
 - 12日 カリフォルニア大インターンシップ終了帰国
 - 17日 埼玉県南児童相談所より来訪かずきの件のご報告
 - 18日 埼玉県こども家庭課課長主幹ご来訪
 - 北埼玉主任児童指導員8名がご来訪研修
 - 24日 江森ヘアーサロンの引き続いたの調整ご奉仕 感謝
 - 26日 第70回緊急臨時理事会開催 渡部かずきの件で
 - 29日 渡部かずきの件で大利根町町長を訪問してご報告
 - 30日 埼玉県立宮代高校職員研修会で菅原施設長講演
- 多くの方々のお支えによったきららかな夏休みでした。そして衝撃と苦悩の2学期初めでした 励みます更に(くら)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

☆クリスマスの祝福を祈り上げます☆
 激しい衝撃と深い悲しみの日から既に百数十日を数え、クリスマスの欲びで暮らしの向きを転換したいと願ったが、クリスマス特集に寄せた子どもたちの文にかずきの名がちりばめられています☆人のいのちの重さは量り知れませんが☆かずきの死亡届が施設長名では受理されません☆児童養護施設の施設長の親権代行権の軽さと負わされている重さのアンバランスを思い知らされました☆解決がどうなるのか分からないかずきの事故問題が年も年度も超えます☆第七一回理事会で三度目になる施設長退任を諮りました☆かずきの件が終結するまで延長となり創立以来の願いの定年退職も見送りです☆多くの方々から弔意を頂きました☆京都府立大の津崎哲雄教授は「天国のかずき君はこれからも成長するだろう。そうでなければ再会の楽しみはない」とお励まし下さいました☆子どもたちのいのちの尊厳を確立して守り応えられるよう、更に励みます☆更なるご支援を！

(哲)